

オズール クオリティ・レポート ～特別編～

パシフィックサプライ株式会社 特別編

2015 年 6 月

いつもオズール製品をご愛用くださりまして誠にありがとうございます。

オズール製品をお客さまに安心して長くお使いいただきたく、オズール クオリティ・レポートを発行いたします。実際の製品の破損事例をピックアップし、オズール社テクニカルマネージャーからのアドバイスと共に皆さまへ月に 1 度お届けします。

皆さまと共に、エンドユーザーさまの 3 ライフ（生命・生活・人生）に寄り添い、製品の品質向上へ努めてまいります。

アイスロック 214

ピンがロックに入りにくいとき……

考えられる原因

1 ピンの向きが断端の長軸と一致していない

装着方法が不適切な場合があります。断端の長軸にピンが一致するようにアイスロスライナーを装着します。なかなか入りにくいときは、一度アイスロスライナーを装着しなおすことをおすすめします。

断端末の形状が非対称で、ピンの向きが断端の長軸と一致しない場合があります。何度装着しなおしてもピン向きが断端と一致しない場合は、この疑いがあります。その場合は断端末にアイスロスパッドなどを用いて形状を補正する方法があります。ただしこの方法は、これから採型する場合には有効ですが、既に完成したソケットでは容積や深さに影響してしまう可能性があり注意が必要です。

（断端末のやせ、筋肉の萎縮で状況が以前から変化する場合があります。クッションライナーとスリーブ（吸着式）やシールインライナーも選択肢のひとつです。）

2 ソケットがきつすぎる

モデル修正の過程を検討する必要があります。アイスキャストアナトミーを採型に用い、AP ML を採寸値に合わせる修正方法がオススメです。

手技採型の場合、MPT で 3 % 程度が標準です。部分的にきつくなりすぎているか確認が必要です。

もしも、モデル上でアイスロスライナーのエッジ部分の形状が損なわれていれば、その部分がきつくなってアイスロスライナーが入らなくなっている可能性があります。

ソケットにアイスロスライナーのみを挿しなめらかに入るかどうか確認します。

ソケットがゆるくなっている場合、断端袋の枚数や厚みも確認が必要です。

断端袋の枚数が増えると、エッジ部分がきつくなる場合があります。枚数を減らし、部分的に PE ライトパッドなどで補正するか、ソケット交換を検討します。

<check!>

アイスロスライナーだけをソケットにいれ、ピンが最後まではいるかどうかなを確認します。

最後で少し入りにくい場合は、ソケット内のエッジ部分がきついと考えられます。複数枚の断端袋を使用している場合は、その状態で問題なく入るかも確認が必要です。

3 ロックアダプタの向きが不適切

採型時のピンの向きが不適切である場合があります。

モデル修正では、ディスタルアタッチメントのエッジを確認し、ロックダミーが同心円上にくるように設定します。

ディスタルアタッチメントのエッジが損なわれていると、ロックアダプタの設定がずれ、ピン方向と一致しない場合があります。

4 ロックアダプタの故障、異常

4 の原因として、摩耗、サビ、異物、初期不良などが考えられます。使用環境や状況なども考慮する必要があります。

ピンがはずれない！そんなときは……

ピンがはずれない場合、厚めの雑誌の背表紙などで強くリリースボタンを叩きます。

ハンマーなど金属製のものでたたくと、ボタンが破損することがありますので避けてください。

それでもはずれない場合は、リリースボタンの根元のナットをソケットレンチで緩め、ロック機構を取り外します。

<check!>

ピンだけをロックアダプタにさしこみ、スムーズに入るかどうか確認します。ピンだけで異常がなければ、他の原因を検討します。

今回は特別編！
アイスロックについて
お伝えします！



スーパー
HIROSHI



アイスロック 214（カットモデル）